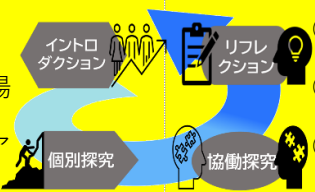


自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」	
実態	成果
	<p>◇札幌市全体の共通指標（子どもの自己評価）に基づくアンケート（以下、アンケート）によれば、「分からないことがあったときに、友達や先生に聞くようにしている。84.4%」「学習で困っている友達に声をかけたり一緒に考えたりするようにしている。83.5%」「人の意見を聞いて、それを参考にして自分の考えを見直すことがある。84.8%」など、<u>主体的・対話的な学び、課題探究的な学習の充実につながる子どもの意識を捉えることができる。</u></p>
	<p>◇アンケートでは、「自分が思っていることや感じていることを人に伝えている。74.9%」「自分の意見を進んで発言しようとしている。64.6%」「意見の違う人とも、よく話し合おうとしている。78.3%」などと他項目と比較すると低い数値となっており、<u>自分たちの意志の実現、自分たちの問題を自分たちで解決するといった協働する取組の価値を実感できるよう、また、子ども一人一人が互いの取組のよさや個性を認め合う中で、自分の伸びや成長を確かに感じられるよう、自主的な活動の充実を図る必要がある。</u></p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
	<p>◇アンケートでは「人のよいところを見付けようとしている。R6：81.8%→R7：86.1%」「人の意見を聞いて、それを参考にして自分の考えを見直すことがある。R6：83.9%→R7：84.8%」など、子ども同士が仲間との関係性の中で他者を大切に思う心の育ちが見られる。一方で、「自分が必要とされていると感じる。R6：70.8%→R7：70.7%」と横ばい状態の結果になっており、「自分が大切にされている」と実感できる学校づくりを更に推進していく必要がある。</p>

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力  
 自ら課題を見付ける力、自分の考えをつくる力、自分らしく表現する力、他者と協働して問題を解決する力、自己調整やメタ認知の力

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自主的な活動の充実 に向けて
	<p>(1) 子どもの問いを大切に、「たい」が生まれ、「たい」がつながる授業、AAR サイクルの視点から授業をデザインする。</p> <p>(2) 子どもの心の動きに焦点を当てて授業を展開するとともに、UDL の方法論を活用し、子どもの能動的な学びを支援する。</p> <p>(3) 子どもが思いや考えを表現する場、自分の言葉で表出できる場を意図的に設定し、対話的な学び、深い学びにつなげる。</p> <p>(4) 自己決定感・有能感・他者受容感を基盤に、体験・リアル・アウトプット・他者との多様な関わりを重視する。</p> <p>(5) ノート指導を中心に発達段階に即した自己調整能力・メタ認知の向上を図り、子どもの自律的な心の動きに働きかける。</p>	 <p>①子どもの知的好奇心や向社会的な欲求、自己実現の欲求を踏まえ、個々がやりがいを感じ、力を発揮する機会をつくる。</p> <p>②SEL の取組によって自他の感情理解やコミュニケーションの基礎的な力を育てる。</p> <p>③活動の中にピア・サポートを背景とした実践的コミュニケーションの場をつくる。</p> <p>④PBIS により、子ども同士の支持的な風土をつくり、他者との協働を楽しむ子どもの姿を引きだす。</p> <p>⑤ASSESS により児童の学校適応感を分析し、個に応じた実効性のある関わりや支援の在り方を検討する。</p>
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について		
	<p>◇(3)に関わって、どの子も自分の思いや考えを表現しやすくするために、オクリンクなどのツールを積極的に活用する。その際、各ツールを使うことのメリットやデメリットについても事前指導し、ICT の効果的な活用について考える機会とする。</p> <p>◇Googleform でアンケートを行って多くの子どもの声を集めたり、集めた意見をテキスト分析して可視化したりするなど、子どもの意見が活動に反映される仕組みを作る。また、パートナー校間交流をオンラインで行い、自主的な活動を支える手立てとする。</p>	

<本プログラムの実行に向けて>

